

3) 現在の食生活環境に対応した製品開発

(システムキッチン・キッチン家電等をテーマにした日常食器製品のデザイン開発)

佐 藤 彰

景気の低迷を主な要因として、有田焼をはじめとする佐賀県陶磁器業界の製造品出荷額は依然として減少傾向にある。当該産地では、現在でも食器類及び美術品置物類が出荷額の大半を占めることから、主要製品である食器類の市場競争力を高めることが当面の重要な課題のひとつである。

しかし、陶磁器食器製品の市場環境も変化しており、従来の伝統的価値と共に、何らかのかたちで市場の動向に対応していく部分も必要になると考えられる。

そこで、食器に関する生活環境の現況及び動向を把握し、そこに向けたひとつの方向性としてのデザイン開発を行うことを目的とした。

1. はじめに

様々な要因により有田焼など業務用高級和食器の需要減少があることから、一般消費者市場における競争力を高めることがより重要になる。

今日では、非日常時の食の外部化などにより、一般消費者の食器の購入動機は、従来と異なり日常用途及び自分用途へと移行している。また、生活様式の変化に対応した新しい調理設備・家電製品等の普及がある。

このような背景から、これらの動向を調査し把握することにより、食器デザイン開発の要素を考察した。

2. 現在の食生活環境に対応した製品開発

(1) 現在の食生活環境の概況

日本の食生活は、従来からの四季による食変化に加え、最近では和洋中に留まらない食の多様性により、調理器具・食器類の種類と数が多いのが特徴である。

最近では、冷凍食品・レトルト食品等の普及拡大、郊外型大型店舗での食材のまとめ買い、さらには外食や食の外部化など家事の省力化や合理化が顕著である。それに伴い、冷蔵冷凍庫の大型化・高機能化や電子レンジ等

の普及、食器洗浄乾燥機や電磁調理器の進歩など家電機器類の対応は進んでいる。

住宅についてもリビングダイニング (LD) やリビングダイニングキッチン (LDK) へと間取りが移行し、システムキッチンをはじめとするキッチン環境の合理化・高機能化の傾向にある。

各種統計資料等をみると、世帯人数の減少、女性の就労の定着、外食・外部化の増加など、数々の食に関連した俯瞰的生活環境の傾向を改めて裏付けるものとなっている。

また、狭い住宅事情を反映して、世代を通じたキッチン環境 (特に収納) への不満が多いことなども明らかとなった。

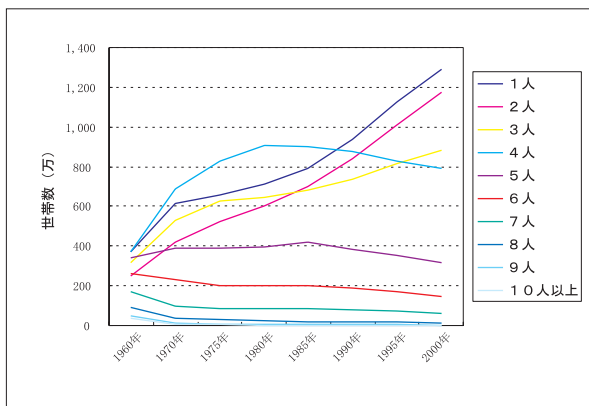


図1 世帯人数の推移

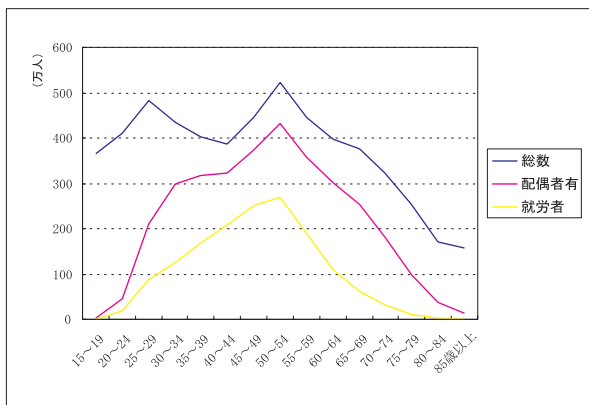


図2 配偶者を有する女性の就労者数
総務省 国勢調査報告 (平成12年) 資料より作成

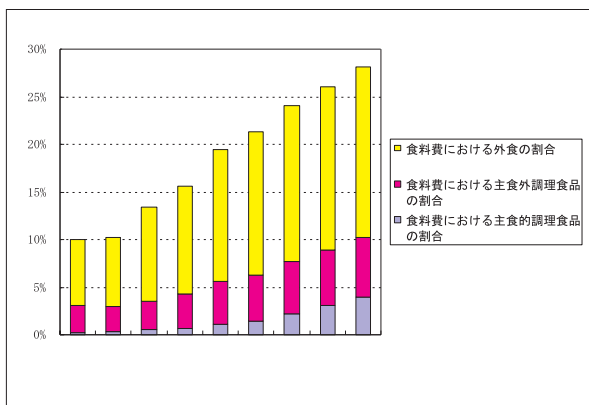


図3 食の外食化・外部化の推移
(財) 食生活情報サービスセンター資料より作成

(2) キッチン及びキッチン家電の商品動向

前述の状況を背景に、キッチン関連設備・機器及び家電製品の動向をみることにより、食器デザイン開発の要素を探った。

①システムキッチン

システムキッチンの出荷台数は、平成11年には従来型セクショナルキッチンを上回り、現在 (平成13年) の普及率は40%を超え、今後も普及が拡大することが予測されている。

最近の傾向として、引出式収納にみられる収納機能の向上、ビルトインといわれる組込式機器類との一体化、清掃性の向上などがある。

ビルトインといわれる設置機器については、購入者の約60%が「引出式収納」と「食器洗浄乾燥機」を設置しており、需要が明らかである。

②キッチン家電

冷蔵冷凍庫や電子レンジなど主なキッチン家電の普及率はほぼ100%に達している。冷蔵冷凍庫については保存機能及び大型収納化、電子レンジについてはオーブグリルレンジなど加熱調理機能の複合化・高機能の傾向がある。このことは、多量の食材を冷蔵冷凍保存し電子オーブンレンジで加熱調理するという生活様式に対応するものである。

また、「食器洗浄乾燥機」、「生ゴミ処理機」、「IHクッキングヒーター」などの新しい家電が注目されており、特に食器洗浄乾燥機は普及率が拡大期への移行点とされる10%に達したことから、今後の普及拡大が予測される。

③デザイン動向

システムキッチン・キッチン家電共に、住居間取りのリビングダイニングキッチン (LDK) への移行を受け、インテリアとの協調

が顕著である。

つまり、インテリアの傾向がキッチンに反映されたものとなっている。具体的にはシンプル・モダンというデザイン様式が現在は主流である。

色彩についても同様の理由から低彩度・高明度の傾向がある。

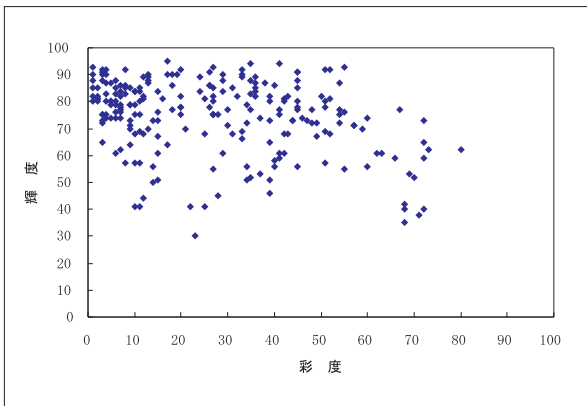


図4 主要メーカーシステムキッチンの色彩分布

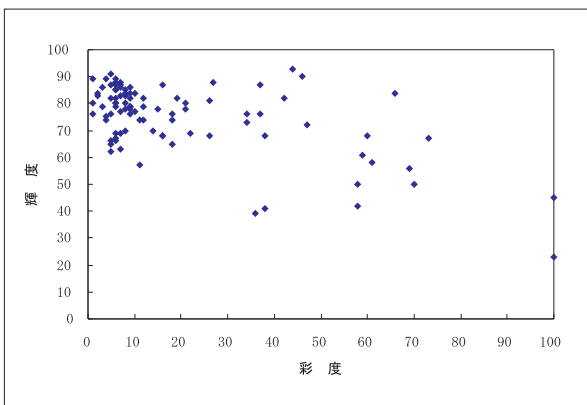


図5 主要メーカー冷凍冷蔵庫の色彩分布

(3) 食器製品のデザイン開発

各種調査から、日常食器に求められている要素は、汎用性と収納性があげられ、さらに食器洗浄乾燥機への対応性も重要であることが明らかとなったことから、これらをデザイン開発の基本要素として取り上げることとした。

現在、食器洗浄乾燥機は、(財)ベターリビング及び(社)日本電機工業会の性能試験方法に基づき設計されており、使用する食器類もそれに基づいている。よって、これらのアイテム、形状、寸法に準じ、また、収納性と汎用性を考慮した形状を条件として基本デザイン開発を行った。

表1 食器洗浄機性能試験等に使用される食器の種類と寸法1

| 食器の種類 | 寸法 (mm) | |
|-------|----------|---------|
| | D | H |
| 大 皿 | 230 ± 10 | 25 ± 5 |
| 中 皿 | 180 ± 10 | 20 ± 3 |
| 小 皿 | 120 ± 10 | 20 ± 5 |
| 茶 碗 | 120 ± 5 | 55 ± 5 |
| 湯のみ | 65 ± 5 | 80 ± 10 |

(財)ベターリビング 優良住宅部品性能試験方法書より

表1 食器洗浄機性能試験等に使用される食器の種類と寸法2

| 食器の種類 | 寸法 (mm) | |
|-------|----------|---------|
| | D | H |
| 大 皿 | 230 ± 10 | 25 ± 5 |
| 中 皿 | 180 ± 10 | 20 ± 5 |
| 小 皿 | 120 ± 10 | 20 ± 5 |
| 小 鉢 | 100 ± 10 | 50 ± 10 |
| 茶 碗 | 120 ± 5 | 55 ± 5 |
| 湯のみ | 65 ± 5 | 80 ± 5 |

(社)日本電機工業会 食器洗い乾燥機の性能測定方法より

(4) 試作

軽量化陶土と天草陶土により、石膏型圧力
鑄込にてデザイン試作を行った。



図6 軽量陶土による試作品



図7 天草陶土による試作品

3. おわりに

今回は、形状の機能的な部分を中心に捉え、
基本デザインの開発・試作を行った。今後、使
用性を含め、意匠性や加飾などさらに検討を行
う。